



新生たのはた  
黎明編

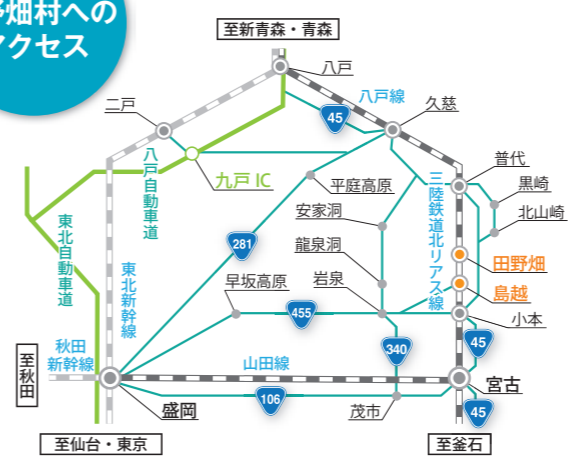
# 人と地域と風と ともに未来へ



岩手県 田野畑村 村勢要覧



## 田野畑村へのアクセス



■バス & 三陸鉄道

盛岡から岩泉経由	盛岡	JRバス 約120分	岩泉	町民バス 約20分	小本	三陸鉄道 約10分	田野畑
盛岡から宮古経由	盛岡	106 急行バス 約120分	宮古	三陸鉄道 約45分			田野畑
盛岡から久慈経由	盛岡	JRバス 約135分	久慈	三陸鉄道 約45分			田野畑
八戸から	八戸	JR八戸線 約105分	久慈	三陸鉄道 約45分			田野畑
二戸から	二戸	JRバス 約70分	久慈	三陸鉄道 約45分			田野畑

■自動車

盛岡	R455	岩泉	R45	約110km	
盛岡IC	九戸IC	久慈	R45	約110km	田野畑
盛岡	R106	宮古	小本	約150km	

## 人と地域と風と・ともに未来へ

新生たのはた・黎明編  
2015年 岩手県 田野畑村 村勢要覧

〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑 143-1  
TEL 0194-34-2111 (代表) FAX 0194-34-2632  
URL <http://www.vill.tanohata.iwate.jp/> E-mail [inquiry@vill.tanohata.iwate.jp](mailto:inquiry@vill.tanohata.iwate.jp)



## CONTENTS

- 2 プロローグ  
新生たのはたの創造力
- 4 特集●テーマ人  
産業を担う人々 [産業]
- 7 次代を担う人づくり [教育・文化] [歴史]
- 8 特集●テーマ地域  
地域を守る [地域協働] [防災]
- 10 地域の保健 [保健・医療・福祉] [子育て支援]
- 12 特集●テーマ風  
ふるさとづくり交流連携 [交流・連携]
- 14 特集●テーマ未来  
新生たのはたづくり～施策の概要 [主要施策]
- 16 主な物産  
たのはたブランド
- 18 エピローグ  
村の概況と沿革
- 20 MAP  
新生たのはた地域マップ

東日本大震災津波により甚大な被害を受けた田野畑村では、新しいふるさとづくりが進んでいます。新たなふるさとづくりのテーマとして「新生たのはたづくり」を掲げ、震災からの復旧・復興に一定のめどを立てることはもちろん、より多くの村民が村づくりに参画し、行政と手を携えて行政施策を推進し、村民一人ひとりが希望の持てる、幸福度の高い、住み続けたい田野畑村をめざしています。

# 新生たのはたの創造力 プロローグ 人と地域と風と ともに未来へ

幸福度の高い  
誰もが住み続けたいと願う  
田野畑村をめざして

田野畑村長 石原 弘

田野畑村では、希望に満ちた村づくりのため、住民が住み続けたいと願う村づくり、幸福に満ちた価値創造の村づくりを、行政と住民が一体となって進めています。

地域協働の精神を大切にしながらい行「幸福度の高い、誰もが住み続けたいと願う村づくり」を「新生たのはた」づくりと名づけ、村政の旗印としました。

私たちの村は、三閉伊一揆の発頭村であることをご存知でしょうか。田野畑村民俗資料館において、一揆

を牽引した村の先人たちの営為が顕彰されています。

「新生たのはた」づくりには、幕末の市民革命とも言われる村の先人たちの偉大な営為を誇りとして、そのころを村づくりに活かしたいという願いが込められています。

「一揆」とは「揆を一」にすること。「揆」の本来の意味は、手段や手法のことです。私は、村民が認められた手法を用いて、村民のこころが一つとなって進める村づくりを象徴する言葉として「一揆一心」という言葉を大切にしています。「新生たのはた」づくりの大きなテーマでもあります。

本村の最大の課題は、過疎に耐え抜きながら、復旧・復興を成し遂げ、「新生たのはた」を創造することとであります。「新生たのはた」の創造は決して難しいことではありません。私は、海を謳歌し、野山にまつまれた美しい村をみんなで楽しんでいた幼い日々を確かに記憶しています。そこに田野畑村の活路が見えていると考えています。

私たちは、東日本大震災の悲しみ・怒りを希望に変え、幸福度の高い、誰もが住み続けたいと願う、「新生たのはた」を目指します。





産業を担う人々

# 恵まれた自然環境を活かした 地域産業の総合的な 振興と発展を図っています

産業



「酪農＝ハード」のイメージを払拭  
酪農の魅力と可能性を伝えたい。

酪農

田河原牧場のりゆき  
田河原 憲幸さん

平成21年に牛舎を新築。餌やりから搾乳、空調までをオートメーション化し、少人数でも生産性・効率性の高い酪農経営を目指しています。舎内には監視カメラも設置。牛の健康状態や出産をチェックできるシステムも導入。機械化によって牛の改良や生乳の品質向上の研究に費やす時間が増えました。

【酪農】地域資源を活かした産業振興は、田野畑村の村づくりの根幹です。豊かな海と大地の自然環境から、さまざまな田野畑ブランドが生まれ、進化してきました。「たのはた牛乳」も、この地域特有の気候と環境によって育まれたブランドのひとつ。かつて凶作の一因といわれた夏季の湿度をおびた冷たい海霧・ヤマセ（北東風）は、家畜の飼料となる良質な草資源をもたらしてくれる天然の恵みとなっています。

近年の酪農経営は、最新の機器設備を導入して、オートメーション化を図り、少人数でも可能な大規模経営を実践する後継者も誕生し、新しい時代を迎えています。

【農業】田野畑村特有の夏の清涼な気候は、ダイコン、キャベツ、ブロッコリー、ニンジン、ミツバといった露地野菜やホウレンソウ、菌床シイタケなど施設野菜の栽培に適しています。

経営規模を拡大し、安定生産・安定販売を目指す就農者の活躍が期待されていますが、施設を整備・導入してなお、就農者人口の減少と高齢化は避けられません。

こうした背景から、事業の拡大を考える農家のなかには、外国人技能実習制度を利用して海外から実習生



## 水産



水産業が元気になることは  
村が元気になること  
この海で漁を続けていきます

田野畑漁協 自営定置網大謀  
ひろため  
佐藤 広為さん

漁業

村内の漁港は、大震災の津波で船から漁具まですべてが流されました。養殖場やふ化場も全壊。サケ漁がふるわず心配していましたが、明戸にふ化場が再建され、平成26年から放流も始まっています。放った稚魚が戻ってくる3、4年後に期待しています。地元から離れていった仲間にも「ここで漁をつづけよう。共にやろう」と声をかけています。

を招き、共に働くことを選ぶ就農者も出てきました。

【水産業】東日本大震災は、田野畑村の水産業にも大きな被害をもたらしました。田野畑村は、津波で全壊流出したサケふ化場を明戸地区に再整備。再建されたふ化場では普代村と共同で稚魚が育てられ、その放流も再スタートしています。

田野畑村がいま取り組んでいるのは、サケを中心とする定置網漁、アワビやヒラメなどの高級魚種の種苗放流、ワカメやコンブなどの養殖業です。操業従事者はもとより、付加価値を高めた加工事業の開発と拡充も求められています。

【林業】田野畑村の山間部一帯は、混交林で構成されています。山々には、古くから葉や高級楊枝の原料として使われてきたクロモジも自生。マツやスギをはじめとする針葉樹、クヌギやコナラ・ミズナラといった広葉樹がほとんどよくミックスしていることから、高低差があるにもかかわらず、田野畑村の山々では土石流災害がほとんど発生してきませんでした。

田野畑村の景観や水資源を守るため、そして人びとの憩いの場を提供するため、村では近隣森林の間伐作業や植樹を定期的に行っています。伐採された間伐材は燃料となったり、合板に加工して有効活用されます。この合板材は、復興住宅用としても活用されています。

田野畑村では、第一次産業に従事する事業者や後継者、新規就農者を支援し、将来を担う人材の育成にも力を入れています。同業者が交流できる場を設け、情報交換しながらスキルアップするためのきつかけづくりも提案しています。

山や森林のことを考えることは  
100年先の田野畑村を考えること

田野畑村森林組合  
じゅんじ  
三浦 純二さん(左)  
かつよし  
佐々木 勝田さん(右)

林業



田野畑村の山の魅力は広葉樹が多いことです。マツやスギの針葉樹と広葉樹がほどよく混交しています。こうした環境が、マツタケやコウタケといった自生の山菜の温床にもなってきました。山と森林を考えることは、100年先の地域を考えること。森林を守ることの大切さを伝えながら、地域の人々と田野畑村の未来を考えていきます。

田野畑の海は、やりがいがある  
若い仲間とともに  
田野畑の海の未来を考えたい

水産業  
たいせい  
畠山 大成さん

漁業



先祖代々ここで漁業を営んできました。季節ごとに様相が変わる田野畑の海は、定置網・延縄・養殖など漁の方法もバリエーションが豊富。祖父や父も手がけた「もっこ網」を使ってタコ漁に挑戦したい。自分の船をもって、仲間と一緒にさまざまな漁を体験したい。田野畑の海はやりがいを与えてくれる海です。

たのはた野菜のブランド化を夢見て  
ビジネスとして手応えのある  
農業を実践

農業  
つよし  
佐々木 剛さん

農業



約18ヘクタールの広大な農地を活用しながら、ダイコン、キャベツ、ブロッコリー、ニンジンなどを大規模生産。外国人技能実習制度を利用して海外の研修生に農業や生活を指導しながら、共同作業を展開しています。田野畑村に農産物のブランドを確立することが夢です。

山地酪農の魅力をもっと知ってほしい  
夢は牧場の牛乳で加工品づくり

志ろがねの牧  
こうたろう  
吉塚 公太郎さん

酪農



30～50頭の牛を山間部で放牧により育てています。牧場には、修学旅行や体験学習の子どもたち、全国の酪農家が見学に来れます。山地酪農の魅力を伝え、志を同じくする仲間を増やしていくことが当面の目標。将来的にはチーズやヨーグルトなどの加工品も生産したいと考えています。





東日本大震災の被害から復活を遂げたサップ船アドベンチャーズ。

観光事業と水産業の連携  
そして第6次産業へ

東日本大震災とその津波により大きな被害を受け、それまで「サップ船アドベンチャーズ」などの体験型観光が注目され順調に伸びていた観光客数は一時大きく減少しました。しかし、観光関係者、水産業関係者の努力により、大津波語り部や三陸ジオパークなど新たな素材や観光プログラムにより再び村を訪れる観光客は増加傾向にあります。

沿岸部だけでなく、内陸や山間部を舞台にした体験型観光のメニューを開発しながら、海と山の産業が一体となつて第6次産業を創出し、働きがいのある村、夢を語れる村を目指して、田野畑村は動き出しています。



ホテル羅賀荘も再開。

北山崎断崖クルーズ観光船が就航。



いま、もっとも注目される、たのはたジオパークガイド。

学びと交流の場から生まれる  
人づくり・生きがいづくり・未来づくり

教育・文化

歴史

次代を担う人づくり

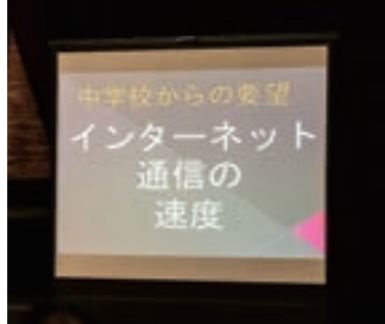
特集 テーマ 人



第3回 復興子ども会議



発表者



第3回「復興子ども会議」の様子。  
(日時:2014年11月1日。場所:アズビホール)

「教育・文化」  
自分たちの具体的な未来を描く  
「復興子ども会議」を開催

田野畑村は、田野畑地区・沼袋地区・机地区・羅賀地区・浜岩泉地区・高越地区の6つの地区に大きく分けられます。人口減少のため、かつて各地区にあった学校は、現在、田野畑小学校と田野畑中学校に統合され、児童生徒たちは同じ校舎のなかで日々学び、活動しています。

それぞれの地区で受け継がれてきた伝統芸能を、学校という場で紹介し合うことで、彼らは、同じ村のなかであつても、異なる文化や歴史があることを学び、認め合うことを学んでいます。村では、教育の日のつどいとして、震災以降、復興庁や県教育委員会の職員、村長を交えた「復興子ども会議」を開催してきました。自分たちの住む地区にあつたらいいと思うもの・こんな田野畑村になってほしいという意見を発表し合いながら、村の将来像や自分たちの未来像を具体的に考える場となっています。

発表のテーマは、地域の産業・文化・ボランティア・生活・インフラ・エネルギー・防災に及び、子どもたちの復興に対する参画意識の高まりをうかがわれます。10年後、20年後の田野畑村を担うのはまさに、こうしたことを考え、意見を提案している彼らにほかなりません。

【歴史】ふるさとの記憶を次世代へ



【田野畑村民俗資料館】三閉伊一揆についての資料を中心に収蔵する全国でも珍しい資料館。また村内の遺跡から出土した縄文時代の土偶なども展示されています。村の歴史や文化を学ぶ場として活用されています。



【三閉伊一揆の像】「三閉伊一揆」と呼ばれるわが国最大級の一揆が起きたのは、今から約170年前のこと。田野畑村の指導者らにより導かれ、歴史に深く刻み込まれる大きなうねりを巻き起こしました。田野畑村民俗資料館に貴重な資料が収められています。



【大宮神楽】三拍子のリズムは荒々しく、舞いも勇壮かつダイナミック。家々を巡業する神楽。わが国にはいろいろな種類の神楽がありますが、山伏修験者が信仰の山を求め旅し、高野山などのような霊場にて舞を演じたという「山伏神楽」に由来するのが「大宮神楽」です。(羅賀地区)



【菅窪鹿踊】本物の鹿を模した鹿踊は、田野畑と四国宇和島だけ。県指定無形文化財。菅窪鹿踊は、本物の鹿に見立てた鹿頭をかぶり、野生の鹿の勇壮な動きを舞う芸能です。菅窪流では鹿踊と剣舞がすばやく交互に入れ替わりながら舞うことに特徴があります。(田野畑地区)

観光客・地域・NPOをつなげるのが  
地元観光ホテルのこれからの役割

ホテル羅賀荘  
宿泊グループリーダー  
まこと  
川村 誠さん

観光



羅賀荘の再建にあたり、ここが震災前から地域に支えられてきたホテルであることを実感しています。観光客にとっては、ここで出会う人々、体験、風景すべてが田野畑村。すべてが田野畑村のホスピタリティです。観光客と地域・NPOをつなぐ要として、それらをつなぐことが、私たちの使命だと思います。

サップ船で田野畑村流のおもてなし  
海上だからわかる  
田野畑の魅力を伝えたい

サップ船船長  
よういちろう  
山根 要一郎さん

観光



遠洋漁業にも携わり、国内外の海を見てきましたが、田野畑村の海は世界に誇れるものだと思います。ずっと海に関わる仕事を続けたくてサップ船を始めましたが、観光客とのやりとりがなにより楽しい。田野畑村を満喫してほしいという思い一筋で毎日船をクルージングしています。



地域を守る

# ふるさととは自分たちで守る 固い決意から生まれた 地域の絆・協働の「ハック」



「ハックの家」の工房・工場・コーヒーショップで働くメンバーは、現在20人ほど。自宅から通う人、グループホームから通う人など、暮らし方や働き方のパターンもさまざまです。

地域協働

防災

特定非営利活動法人  
「ハックの家」施設長  
あつこ 竹下 敦子さん

あらゆる人たちが  
安心して暮らせるよう  
皆で支え合う「ふるさとづくり」。

特定非営利活動法人「ハックの家」

「ハックの家」は、障がいをもつ人たちに、日常生活や社会生活を営む上で支障となることなど何もない安全な場を提供し、働く喜びと生きがい、社会的自立をサポートするNPO法人です。平成8年の開所時から「あらゆる人たちが、住みなれた場所で安心して普通の暮らしを送れるよう、皆で支え合うふるさとづくり」をモットーに活動を展開してきました。

現在、この施設で働くメンバーは約20名。裂織工房やパン工場など、自分の得意分野を活かして働いています。当初は田野畑村に暮らす住民を対象としていましたが、宮古市・洋野町・野田村・普代村からも人が通い始め、サポーターやボランティアも自治体の枠を超えて加わるようになりました。施設には、全国から見学者や賛同者が訪れ、さまざまな新しい交流活動が育まれています。「ハックの家」は、北三陸における障がい福祉サービスの拠点として大きな期待をあつめています。

ません。住民と行政の協働なくして、魅力ある田野畑村の創造はなしえないからです。



【村中央防災センター】  
水門を遠隔操作で開閉する水門等遠隔操作設備などを整備し、防災活動と災害対応の拠点施設として利用されます。



【地震情報等情報システム】  
役場の震度計が震度3以上の地震を検知すると、自動的に作動し屋外戸別受信機にアナウンスが流れます。震度3、4の場合は、避難勧告にともなう確認事項をくりかえし放送。震度5以上になると、サイレン警報の後、避難指示についての告知が行われます。

## 安全で安心な地域づくり 防災情報システムの整備

地域コミュニティの強化は、地域防災力を確立し、住民の防災意識を高めるためにも欠かせません。

地理的・物理的に連携が難しい地区では、住民が自主的に防災組織を結成しながら、安全で安心な村づくりに努めています。

地震情報等情報システムを導入してインフラを整備し、震災の記憶を風化させないための防災に関する講演会を開催して、災害に強い社会生活基盤の整備を図っています。

## 失われた景観を復活させ 田野畑村の元気を全国に発信

### 机浜番屋群再生プロジェクト

漁村の営みや文化の風景がそのままの姿で残っていた「机浜番屋群」は、

地域住民と観光客の交流拠点としてにぎわっていました。平成18年に水産庁により「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選定され、番屋群を背景に現役の漁師と交流する体験プログラムが好評でした。しかし、東日本大震災による大津波で、すべてが流されてしまいました。

このままではいけない、田野畑村の元気をもう一度番屋を再生させることで発信しようという地域の声があり、番屋群再生プロジェクトのはじまりです。

村の原風景を復活させるため、地元住民はもとより、近隣の住民、観光客、そして全国のサポーターが連携し支援に取り組み、多くの人がさまざまな形でプロジェクトに関わっています。

明るく住みよいふるさと建設のため、地元の住民一人ひとりが主役となって、手と手を携えなければなり



【机浜番屋群再生プロジェクト】  
漁具の収納や海藻類の乾燥作業場として、漁期は宿泊する場所として利用されていた机浜番屋群。番屋群は、本来の目的以外にも、漁師体験・塩づくり体験・食体験の場として活用しながら、さまざまな人びとが楽しく集える空間づくりを目指しています。





地域の保健

**乳幼児から高齢者まで  
保健センターを中核に  
元気で健康な暮らしをサポートしています**

保健・医療  
福祉

子育て  
支援

住民一人ひとりにかなった

保健・医療・福祉サービスを提供

田野畑村の総人口に占める65歳以上の高齢化比率は約30%。出生数は、年間30人弱で、少子・高齢化は今後も進んでいくと考えられます。特に高齢者にとって、安全・安心に暮らしをいける保健・医療・福祉が強く求められています。

地域福祉サービスの拠点として、支援を必要とする高齢者の生活をサポートする相談窓口となっているのが保健センター内に設けられている「田野畑村地域包括支援センター」です。介護予防を主眼におきながら、関連事業者の紹介や調整などを行っています。

保健センターでは、保健師、看護師が常駐し、家庭訪問や各地区での啓蒙活動、健康相談を通じて、村民と保健・医療・福祉の関係機関をつなげ、住民一人ひとりにかなった各種サービスを提供しています。



**保育園と児童館の  
保育料無料化を実現  
日本一子育てのしやすい村を  
目指します**

田野畑村は、未来を担う子どもたちを地域社会が一体となって育てるという姿勢から、さまざまな対策を

展開してきました。

少子化対策の一環として、平成22年度から、村内の保育園と児童館・保育所に通う園児すべての保育料の無料化(食費除く)を実施していますが、これは若手県内の市町村では初めての取り組みとなります。

かつて6カ所あった児童館・保育

所が統合され、現在は村立たのはた児童館と村立若桐保育園の2カ所

で保育が行われています。若桐保育園に併設した「田野畑村地域子育て支援センター」では、親子で参加するイベントや年齢別のサロン、健康・育児相談などが催され、妊婦から就学前の子ども、保護者に対応したきめ細

やかなサポートが進められています。

さらに田野畑村では、高校生までの医療費補助を実施し子育てを応援しています。次代を担う子どもが健やかに生まれ育つため、万全の体制をもって保育環境と福祉の充実に努めています。



国保田野畑村診療所・歯科診療所  
(医師1人、看護師2人、歯科医師1人、歯科衛生士1人)



健康や予防について、公用車に貼るポスターや広報、ホームページなどをとおして、啓蒙活動をおこなっています。

田野畑村は子育てにやさしい村  
小野寺 直子さん

3人の子どもを育てる親にとって、保育料無料はとてありがたいサービスです。「田野畑村地域子育て支援センター」が開催するイベントにもよく親子で参加し、同世代や異世代との交流を図っています。医療費の免除でも、随分助けられています。



たのはた児童館



若桐保育園



子どもの笑顔があふれるよう子育ての充実を図っています。(たのはた児童館の児童たち)



田野畑村に暮らす妊婦の一般健診は14回まで無料。定期的におこなわれる乳児健診や幼児健診では、保健師が健康相談に応じています。



ふるさとづくり  
交流連携

## 新生たのはたづくりに 重要な交流連携 多彩な交流が生まれています

交流・連携



復興の象徴・島越観光交流センター。

「体験村・たのはた」が  
活動10年にして

地域づくり総務大臣表彰を受賞

田野畑村は、平成22年5月に「たのはた」・おもてなし憲章」を定め、この憲章が目指すのは、村民すべてが主役となって観光客を招き、おもてなしの村づくりを推進することにあります。

その要となるのが体験型観光。海のアプスと呼ばれるダイナミックな海岸線をサップ船で巡る旅。北山崎トレッキングでは、標高差の大きい村の地形を体感できます。三陸ジオパークでは、浸食された堆積岩の中にひしめく、白亜紀の化石群を見つけることができます。このように美しい景観の中で、大地の歴史や地域の文化、住民の生業(なりわい)に「触

れ」「学び」「楽しむ」ことがたのはた観光スタイルです。

「体験村・たのはた」は、田野畑村の観光メニューを開発し、観光客のアテンドを担うNPO団体です。活動をスタートしてから10年。民泊や体験メニューを絡めた教育旅行、住民を巻き込んだ新規プログラムの導入により、村を訪れる観光客は年々増加。地域を活性化させてきました。

こうした活動が評され、平成25年には地域づくり総務大臣表彰を受賞しました。

復興の象徴

島越観光交流センター

東日本大震災で大きな被害を受けた本村。島越地区では三陸鉄道の線路や橋脚、駅舎も流失しましたが、平成26年4月6日、北リアス線全線で

運行を再開。

旧駅舎をイメージしてデザインされた島越観光交流センターには、切符売場・交流コーナー、物産販売や軽食コーナーが設置されており、全国から訪れる観光客を招く窓口として再建。村を訪れる人びとの交流の場、旅の起点となる施設として大きな期待を集めています。

友好都市・埼玉県深谷市との交流

田野畑村には奥羽押領使に任じられた畠山一族の武士が移り住んだとされていますが、埼玉県深谷市畠山地区(旧川本町)は、鎌倉時代の武将「畠山重忠」公の生誕地。歴史の縁により旧川本町と友好町村の提携をしたのは平成9年のこと。市町村合併により旧川本町が深谷市となったことを機に、平成18年3月5日、田野畑村と

深谷市が友好都市を提携しました。姉妹都市との交流では、深谷市の小学生が田野畑村の小学生と一緒に集団生活をしながら、体験学習を通して交流する小学生交流を行っています。また、田野畑村の産業開発公社が、毎年、深谷市の産業祭りに出向いて村の特産品を販売するなど、官民一体の交流が続いています。

たのはたの未来を共に考え  
熱いメッセージを発信  
在京田野畑村ふるさと会

田野畑村の未来を熱く語り合う人々がいます。在京田野畑村ふるさと会のみなさんです。毎年開かれる総会には、本村出身者のみならず、田野畑村とのゆかりの深いみなさんが集まり、田野畑村の未来を共に考え、熱い議論を交わしながら、ふるさと復興への指針となる熱いメッセージを発信し続けています。在京田野畑村ふるさと会のみなさんは、郷里の復興を心待ちにし、「新生たのはた」づくりに熱い期待を寄せています。



NPO法人「体験村・たのはた」のスタッフ。発足から10年、体験型観光の活動が認められ、平成25年に地域づくり総務大臣表彰を受賞。

リピーターが多い体験型観光客  
村民のおもてなしの心が大切です

ジオパークガイド  
ちゅうぞう  
平坂 忠三さん



田野畑村で漁師をしていました。ガイドを始めて18年。体験村の設立とともにトレッキングガイドも始めました。体験型観光に参加した人にはリピーターが多いのですが、口コミでその魅力が伝えられているようです。これからは観光に携わっている人だけでなく、村民全員が地域の魅力をPRし、観光客をお招きすることが大切になってくると考えています。

田野畑村のままの姿を知ってもらうこと。  
地域の魅力を「通訳」するのが、私たちの役割

体験村・たのはたネットワーク  
たくろう  
事務局 楠田 拓郎さん



田野畑村を訪れた観光客にとっては、景色・食事・地元の人たちとのふれあいすべてが、この村の体験であり旅の記憶となります。地域のコミュニティもその魅力のひとつ。村民一人ひとりがおもてなしの心をもっています。私たちの役割は、この村に内在するありのままの魅力を通訳すること。体験型観光は、その手段として大きな可能性を秘めていると思います。

忘れてはならないことがある  
伝えつづけるべきことがある

津波体験語り部ガイド  
ひろつぐ  
下坂 弘次さん



羅賀地区の海岸から約360メートルの陸地に、明治29年の三陸津波で流されてきたとされる20トンの岩があります。海面から約25メートルの高さにある大岩は「津波石」と呼ばれてきました。今回の津波もちょうどそのあたりまで押し寄せています。自然災害でこれ以上、人が犠牲になってはならない。そのために語り伝えつづけていくこと。それが私たちの役割と考えています。

意識の高い観光客が訪れる田野畑村  
その期待に応えたいと思います

体験村・たのはたインストラクター  
みづこ  
渡邊 悦子さん



東京消防庁で仕事をしていた時に震災が起り、ボランティアで陸前高田市などの支援に入りました。腰をすえて活動したいと思い、「体験村・たのはた」のメンバーに加わりました。この村を訪れる観光客には、エコツアーやグリーンツーリズムに携わっている旅の専門家も少なくありません。関心や意識の高い方々の期待に応えられるアテンドが求められています。

復興への期待をあつめて  
ホテル羅賀荘が再開

平成23年3月11日、あの東日本大震災の発生により、ホテル羅賀荘は津波の直撃を受け3階まで浸水。人的被害こそありませんでしたが、ホテルは破壊され、営業休止にまで追い込まれました。年間約6万人が利用し、村の基幹産業である観光産業の中核を担っていたホテル羅賀荘の被災は、集客や雇用の面でも、他の観光施設への波及効果の面でも、大きな打撃を与えるものでした。あれから1年8ヶ月を経た平成24年11月、ホテル羅賀荘は、村の復興への期待を背負って再スタートしました。

ホテル羅賀荘 ☎0194-33-2611 <http://www.ragaso.jp/>



ホテル前の羅賀漁港からはサップ船アドベンチャーズが運航。



官民一体の交流が続く友好都市・深谷市の産業祭りで本村の特産品を販売。



郷里への尽きない思いを語り合う在京田野畑村ふるさと会のみなさん。



新生たのはたづくり  
の概要

## 村民が希求する

### 村民による村民のための

### 「新生たのはた」づくりの実現に向けて

主要施策

「協働」による行政運営の推進という考え方は、地方自治における重要な基本姿勢として、取り上げられており、本村においても早くから村政運営の基本理念に据えてきています。



盛んな体験学習。



子どもたちの教育を充実。



都市との交流を生む三陸沿岸道路の整備。

### 「新生たのはた」づくりの概要

国内は総じて人口減少の時代突入し、本村をはじめ多くの地方自治体は、少子高齢化と過疎化の課題に直面しています。今こそ、村民の皆様が住み続けたいと思っていたただけのむらづくりに積極的、継続的に取り組んでいかなければなりません。

- ・笑顔にあふれる村
- ・声かけ推進する村
- ・役割のある村
- ・豊かな食生活が営まれる村
- ・健康に暮らせる村

### 総合計画「基本構想」概念

#### 「基本理念」

「参加・協働・創造」によるむらづくり

#### 「視点」

「人」「環境」「安心」「交流」を視点とした

新しいむらづくりの推進

#### 「基本目標」

「人と自然が輝き

心ふれあう創造の村・たのはた」

#### ▼主要施策の展開

##### 主要施策1 産業の活性化

農林水産業振興に関わる具体の事業として、いわて地域農業マスタープラン実践支援事業、菌床しいたけ生産支援および安定生産対策事業、原木しいたけ生産振興事業、いわて型牧草地再生対策事業、和牛繁殖導入事業、優良乳牛・優良肉牛生産支援事業、森林整備加速化・林業再生交付金事業、サケ資源回復事業、水産業共同利用施設復旧支援事業など、多様な事業を展開します。

##### 主要施策2 保健・医療・福祉の充実

各種健診や保健事業の推進と診療所運営、高齢者養護施設などとの連携を図りながら、村民が心身ともに健康で過ごせるよう、その充実を期していきます。

##### 主要施策3 社会資本の整備

大震災で被災した水産関連施設をはじめ、村単独では整備できない大規模な産業基盤や社会資本の整備は、将来にわたって本村の振興発展に不可欠です。

##### 主要施策4 教育の振興

本村児童生徒の健全育成と学力向上、そして社会教育、社会体育、文化の振興に資する生涯教育の充実発展を期すように努めます。

#### ▼震災からの早期復興

##### 早期復興1 生活再建と生業の成立

被災者の方々の生活再建を最優先に、住宅再建と生業を成立させるための条件整備に取り組みます。

##### 早期復興2 防災の地域づくり

大震災を踏まえ、村防災計画を見直しました。村民の生命と財産を守ることを最優先に取り組みます。

##### 早期復興3 地域振興

定住人口が多様な年齢で構成されていることが理想です。それぞれの地域に魅力があること、通動できる範囲に就労の場があること、買い物や教育・保健・医療・福祉が充実していることなど、多様な分野の条件整備が不可欠です。

MOVIE 三陸復興国立公園を代表する景勝地「鶏の巣断崖」から「北山崎」へと続く高さ200メートルもの断崖の連なりは、田野畑村が誇る雄大な絶景です。



MOVIE 通称「辞職坂」を見下ろす高さ120mの思惟大橋。橋の完成は交通の難所を克服しました。







### 磯の風味満点、 美味しい海の幸・海産物

三陸の海の荒波にもまれて育った天然のコブ・ワカメは美味しさも格別です。ウニやアワビが美味しいのも、その餌となる海草が美味しいから。まるで宝石のように美しいイクラは、まさに海の幸・海の宝。田野畑村は美味しい海の幸の宝庫です。



### 特産ヤマブドウを使った大福やまんじゅう 様々な食材にあう万能みそだれなど 田野畑レディース「虹の橋」の女性たちが考案

「道の駅たのはた」にある加工品販売施設「虹の橋」で評判を呼んでいるのは、特産ヤマブドウを使い、渋みを抑えヤマブドウ独特の紫色が目を引く大福やまんじゅう。また、生野菜や焼き肉など様々な食材に合うよう工夫を重ねた万能みそだれも好評で、いずれも「地場の物を使った手作りを食べてほしい」と、施設を運営する田野畑レディース「虹の橋」の女性たちが考案しました。豆腐田楽や大豆入りドーナツと並ぶ「虹の橋」の人気商品です。



### 地場産品を原料にした特産品づくり 「産直プラザ思惟大橋」「産直プラザ尾肝要」

地場産品を原料にした特産品づくりに取り組んでいる「産直プラザ思惟大橋」と「産直プラザ尾肝要」。山ぶどうジュースや、どんぐりまんじゅう、よもぎ・さくら・ブルーベリー大福、たのはた牛乳パンなど、季節ごとに食品添加物を一切使わない手作りのさまざまな特産品が店内に並びます。

### 田野畑村サケふ化場

東日本大震災で全壊した田野畑村漁協のサケふ化場が、平成24年11月に明戸地区に再建されました。隣接する普代村の普代村漁協ふ化場も被災しており、両漁協が共同で利用しています。自治体の枠を超えて共同利用するのは岩手県内で初めてです。



### 主な物産

# たのはたブランド

食のブランド化を積極的に推進

### たのはた牛乳

牛乳本来の風味に加え、驚くほどの甘さが特徴。それは乳牛の生育環境から徹底して気を配ることで生まれます。ヤマセ（北東風）で知られる田野畑の冷涼な気候は、涼しさを好む牛にとっては最適の環境なのです。  
また、「いい牛乳はいい餌から」と、牛の体にストレスを与えない牧草を中心に飼育。近年は岩手大学の協力のもと牧草の共同研究にも取り組み、生乳の品質向上を図っています。さらに生乳本来の風味を損なわないよう85℃25分間のこだわりの殺菌方法。安全でおいしい牛乳を作るための、頑固なまでのこだわりがあるからこそ、濃厚な味わい深い、たのはた牛乳となっております。



### 自然の風味を大切にしたい味わい・乳製品

村内の乳牛から搾った生乳を村内のミルクプラントで加工。自然の風味を大切にしたい味の濃い牛乳、飲むヨーグルト、食べるヨーグルト、アイスクリームは、全国に根強いファンも多く、岩手を代表する乳製品のひとつです。



### 国内トップレベルの生産量・あい鴨製品

ここ田野畑村は、あい鴨生産量が全国一。餌は抗生物質・ワクチンを一切使わず常にベストな状態で育つよう研究した飼料を与え、また細い足に傷がつかないよう鴨舎の床に粉殻を敷き詰めるなど、飼育環境に徹底してこだわっています。こうして育ったあい鴨は肉厚でコクがあり、特有の匂いやクセもありません。あい鴨肉は血中コレステロールを下げる働きがあるといわれるリノール酸を多く含んでおり、有名料理店も太鼓判を押す品質の高さを誇っています。



### 元気です！たのはた新鮮野菜

清涼な浜風の吹く広い畑でとれた新鮮な野菜が田野畑村の新しいブランドとして注目を集めています。

味わい格別  
季節の旬を堪能できる  
たのはたの大自然の恵み  
まごころこめた品々

### 田野畑村産業開発公社

田野畑村では酪農が盛んに営まれており、「たのはた牛乳」を始め「アイスクリーム」や「ヨーグルト」が作られ、ナチュラルでまろやかな乳製品として親しまれています。  
**商品のラインナップ:** たのはた牛乳 / 乳製品 - ヨーグルト、たのはたアイスクリーム、たのはたジェラート / 海産物 - 昆布、わかめ / 特産品 - 山ぶどうジュース、牛乳せんべい、たのはた牛乳のお酒、山ぶどうワイン  
〒028-8401 岩手県下閉伊郡田野畑村尾肝要 39-1  
TEL 0194-34-2555 FAX 0194-34-2081 URL: <http://www.tanohatamilk.com>





## 村のシンボル

(昭和51年3月19日制定)



### 【花】 シロバナシャクナゲ

海岸に自生する高山植物として天然記念物に指定され、清らかにして気品に満ち、群落して開花する様は連帯、協調を象徴するものとしてふさわしい。



### 【鳥】 ヤマドリ

村内に広く分布し、その繁殖力と母性愛の強さは、平和を希求する村民の象徴としてふさわしい。



### 【木】 キリ

村民生活に密着した木として親しまれ、村の象徴としてふさわしい。

## エピローグ 村の概況と沿革



### 村民サロン

かつての村長室を誰もがいつでも訪れて語り合える場「村民サロン」として開放しています。一揆一心の語り場が誕生しました。



## 雄大な自然を活かして独創の体験型観光を提供 「体験村・たのはた」の体験メニュー



### サッパ船アドベンチャーズ

地元漁師さんの仕事道具「サッパ船」(小型の船)で田野畑沿岸をクルージング。仰ぎ見る北山崎の断崖や途中の海食洞など、間近に見る変化に富んだ景色と、一帯を知り尽くした漁師さんのガイドが魅力です。



### 北山崎ネイチャートレッキングガイド

「北山崎自然遊歩道」(遊歩百選)や「鶴の巣断崖自然遊歩道」など、海沿いの豊かな自然のなかを東北弁の地元ガイドとトレッキングを楽しめます。歩くコースは参加者の体力に合わせて設定することができます。



### 津波体験語り部 & ガイド

平成23年の東日本大震災で田野畑村も大きな被害を受けました。北山崎や鶴の巣断崖などの主な景勝地は無事でしたが、島越や羅賀地区の民家や漁船のほとんどが流失し、39人の犠牲者と数百人も避難者がでました。震災の風化を防ぎ、一人でも多くの人が少しでも高い防災意識を持てるようにと、経験した人が自らの声で語ります。

■お問い合わせ NPO 法人体験村・たのはたネットワーク TEL.0194-37-1211( 机浜番屋群内)

## 村の地理

### 位置

岩手県沿岸北部に位置する本村は、南と西側は岩泉町に、北側が普代村に接し、東は太平洋に面しています。東西に約17km、南北に14kmほどあり、面積は156km<sup>2</sup>余りです。極東141度53分、極北39度56分。

### 気象

村のほぼ中央を南北に走る国道45号を境に、西側は内陸型、東側は沿岸型の気候に分けられます。ヤマセ(冷たい北東風)など海の影響が強いのも特徴です。宮古や久慈地方とも気象は異なり、年間雨量は約1,000ミリ。初霜は10月下旬、遅霜は4月下旬頃です。

### 三陸復興国立公園

東日本大震災からの復興に貢献する新しい国立公園として、陸中海岸国立公園を核に平成25年5月に創設された国立公園。青森県八戸市から宮城県気仙沼市まで、南北の延長は約220kmに及び、北部は豪大な断崖、南部は入り組んだ地形が優美なリアス海岸が続く。中でも北山崎に代表される田野畑村の海岸一帯は国内第1級の観光資源となっています。



ジオサイト ひらなめ海岸



北山崎



青空を覆い隠すヤマセ



鶴の巣断崖

## 村章 (昭和40年12月制定)

「夕」を図案化したもので、円は村民の円満、団結を意味し、力強い村の進歩発展を表わす。



## ムービーを見る!

スマートフォン/タブレット端末からiOSはApp Store、AndroidはPlayストアから「COCOAR」を検索してインストール。COCOARを起動しスクリーンマークをタップ。COCOARマークの付いた画像にかざすとご覧いただけます。

## 田野畑村村勢要覧 電子書籍版公開中!

<http://digibook.safekeeping.jp/tanohata/>



## 田野畑村の概要

### 地勢

北上山系のなだらかな起伏が、海岸に近づくに従って変化が激しくなります。北山崎や鶴の巣断崖は200m前後の絶壁となって海に落ち込み、太平洋に向かって東西に延びる谷々が大地を深く切り刻んでいます。平地は16%不足らず、ほとんどが山林です。

### 沿革(近代編)

明治22年4月、田野畑、沼袋、浜岩泉の3村が合併し、現在の田野畑村が誕生しました。昭和40~50年代には横木沢橋・思惟大橋の開通、国道45号全線改良、三陸鉄道開通と交通基盤が整備され、さらに平成18年には「三陸北縦貫道路」の一部が整備され、思案坂大橋が開通しました。平成26年3月には、三陸沿岸道路尾肝要道路「尾肝要トンネル」が開通。4月には、三陸鉄道が全線復旧。7月には、北山崎断崖クルーズ観光船の就航、島越駅の利用が再開されました。現在村は、住民と行政の「協働」、そして「人・環境・安心・交流」の4つの視点による村づくりを進めるとともに、平成25年9月より新たな村づくりの指針として「新生たのはた」づくりを提唱し、実現に向けて官民一体となった複数の事業を展開しています。

## 震災復興冊子 関連資料



「記憶を未来へ」  
[発行] 平成26年3月



「東日本大震災  
田野畑村災害復興計画」  
[発行] 平成23年9月



「田野畑村総合計画」  
[発行] 平成23年3月